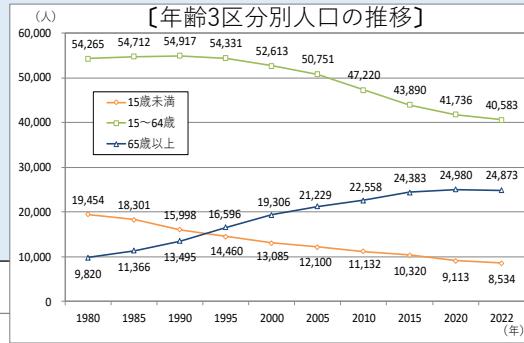
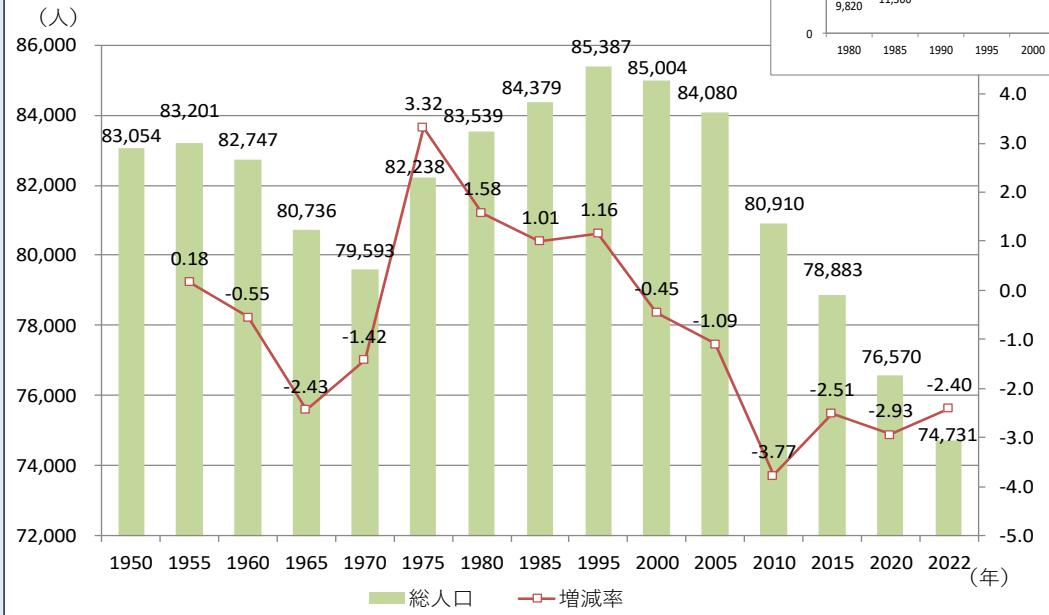


中津川市人口ビジョン（令和6年3月改訂）【概要】

中津川市の人口の現状

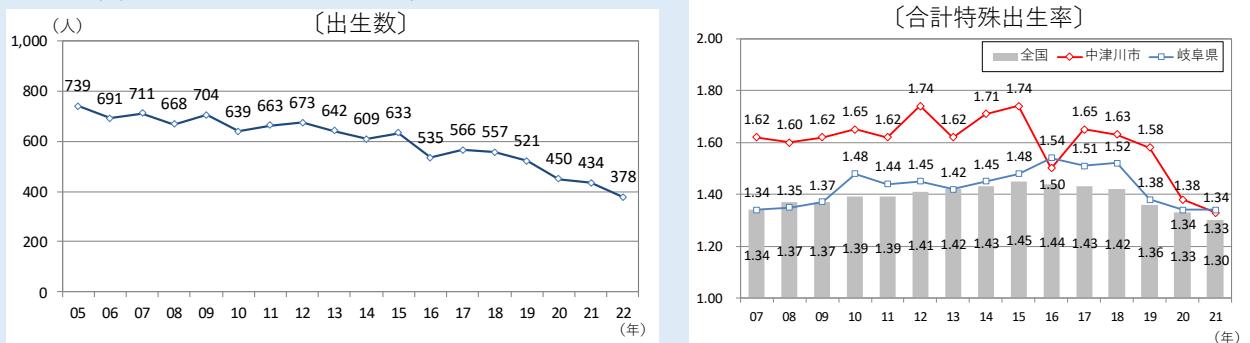
中津川市の総人口の推移

- 1995年（H7）の85,387人をピークに減少傾向が続いている。
- 15歳未満は1980年（S55）以降は減少傾向
- 15～64歳の生産年齢人口は、1990年（H2）をピークに減少
- 65歳以上は、増加基調で推移



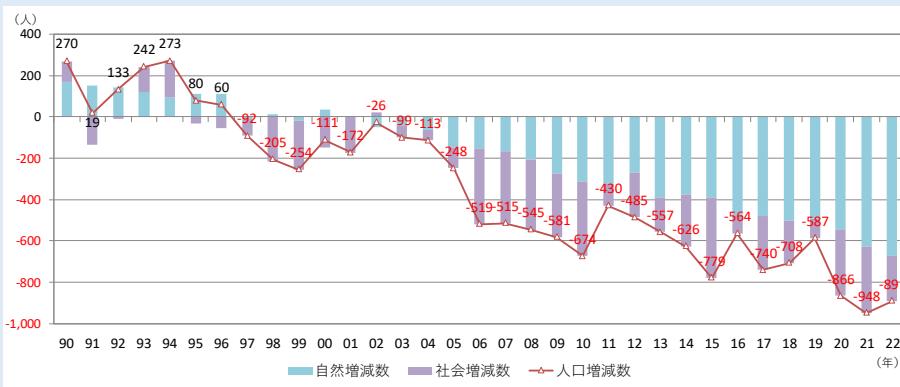
出生率の推移

- 出生数は継続して減少傾向で推移
- 合計特殊出生率は岐阜県、全国を上回る水準で推移していたが、2020（R2）に大きく減少し、全国の水準に近づいている。



人口増減の推移

- 1996年（H8）までは「自然増」により、人口は増加ないし横ばい
- 1997年（H9）以降は、特定の年数を除き「自然増減」と「社会増減」の双方が「人口減」
- 2006年（H18）以降は毎年430～950人程度が減少



人口の将来展望

年齢別人口の推移

- 国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年の年齢別の人口では、高齢者の比率が一層増加すると推計されている。



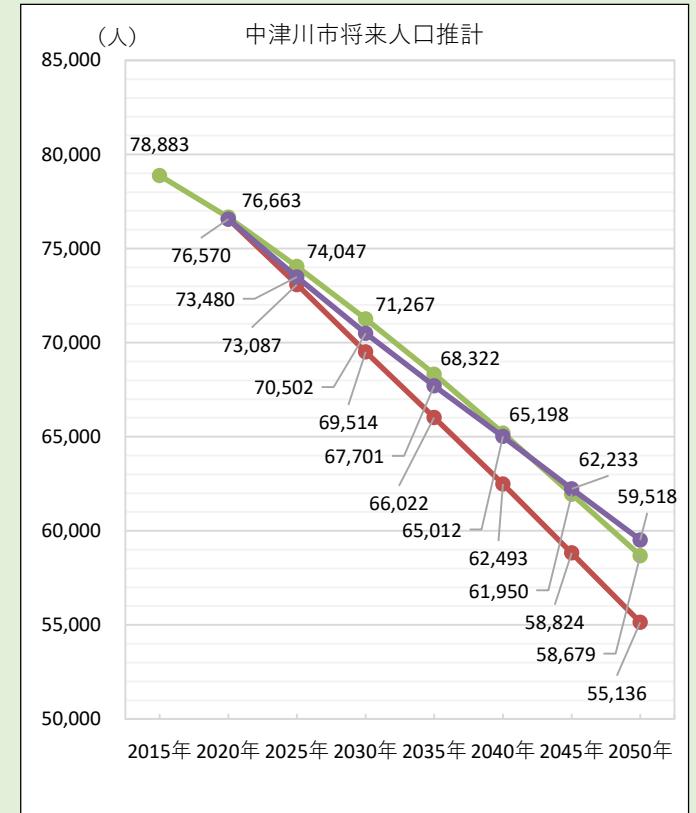
人口の将来展望

- 人口推計のパターン

社人研2015パターン（2015年国勢調査ベース 社人研推計）	
出生	現状維持 (合計特殊出生率1.74を元に推計)
移動	移動率が今後一定程度縮小

社人研2020パターン（2020年国勢調査ベース 社人研推計）	
出生	現状維持 (合計特殊出生率1.38を元に推計)
移動	移動率が今後一定程度縮小

独自推計パターン	
出生	岐阜県と同じ合計特殊出生率の設定 (2030年1.8 2040年2.07) ①
移動	転出2%減、転入2%増、2040年以降は転入・転出は均衡 ②



市が目指すべき展望は次のとおり。将来に渡って本市が持続可能となるかは、現在の取り組みにかかっている。

①合計特殊出生率の上昇

- 未婚化・晩婚化を抑制して、結婚から妊娠・出産、子育てに対して切れ目のない支援を総合的に行うほか、地域全体での子育て支援に取り組む
- 2030年に1.8、2040年に2.07を達成

②将来の交流人口増加を活かした雇用の場の確保等による若年層の人口流出抑制と転入促進

- リニア中央新幹線開業を見通した新たな分野の産業の誘致・既存産業の活性化により若年層の転出数を2%抑制
- Uターン施策により転入数を増やすとともに、子育てしやすい生活環境、自慢できる都市環境により転入数を2%増加
- リニア中央新幹線開業後の2040年以降の転入転出を均衡